

http://www.minamih.net/



3・3・23 (土)
南NEWS NO75

明日は南の卒業式

由井三小校庭で10:30~15:30の予定で行います。

- 集合 10:30
- 昼食 12:00
- セレモニー 13:00
- 解散 15:30



※セレモニーでは全員で卒業生を祝福してください。

- ・卒業生との思い出のゲームをします。運動のできる靴・服装で参加してください。卒業生とコーチのPK対決もあります。
- ・カレーライスを5年生以下のお家の皆さんが作ってくださいます。お皿とスプーンを持参してくださいね。コーチのみなさんもよろしくお願ひいたします。

学校と同じで南の主役は子ども達です。サッカーの主人公は子ども達です。南では子ども達がどんなサッカーをめざすかを決めて、自分達でめあてをつくりその達成をめざしていきます。サッカーの三間：仲間・空間・時間を大切にしながら、学び合い、育ち合いをめざしているのです。

以下の文章は、卒業の日に改めて読んでいただきたいと思い、再掲いたしました。

「なぜ日本の若者は自立できないのか」 岡田 尊司著 小学館
第6章 この国の再生は教育から p222~223より

虐待やいじめの増加や冷酷な犯罪に象徴される、人と人との絆の希薄化したこの国の殺伐とした状況は、共感性の低下と大いに関係している。共感性を育てることが、社会のぬくもりや絆を回復させることにつながるのである。

共感性を育む上では、家庭での養育や体験も重要であるが、学校でのネガティブな体験や利己的な風潮がそれを損なってしまう場合も少なくない。共感性を破壊してしまう一因となっているのが、過酷すぎる受験戦争や点数主義である。その意味でこの何十年かの受験戦争にさらされた世代は、自己愛的で、利己的で、共感性の乏しい世代に育てられてしまったとも言える。その結果、社会全体の共感性が低下し、相互扶助精神が失われ、殺伐とした現実を生み出すのにも一役買ってしまっているのだ。

そこを子どもの世代から変えていかなければならない。とうの昔に大人になってしまっている世代は仕方がないとしても、新しい世代を守っていく必要がある。そうすれば自己愛的な世代の連鎖は防げるだろう。

小学校低学年の早い段階から、グループ内で助け合い、教え合うことが自然に身につく。共感性や社会的スキルも自然に身につけていきやすい。それは、彼らが大人になったとき、共感性の高い、相互扶助精神に満ちた世代を作り出すことであり、社会に希望と幸福をもたらすだろう。フィンランドのグループ学習の成功は、学力だけでなく、共感性や社会的スキルを養うのにも非常に有効なことを示した。

社会の崩壊を食い止め、これ以上荒んだ社会に陥っていくのをとどめるためには、この共感性の部分から子どもの頃から意識して育てていく必要があるのだ。それが弱っているため、自己愛のために、自分の子どもを殺すということも起きてしまうのである。

○『脳内汚染』の著者で、昨年、抜粋を皆さんに紹介した岡田氏の最新の著作です。購入して一気に読みました。頷けることが多く大変勉強になりました。日本中から、世界中から大震災の被災者の皆様方に“一人じゃないよ”の支援と励ましの声、人間っていいなと思わせてくれています。他の国の教育等と比べた日本の現状を知ることでお子さんのためにもなると思います。ぜひ、読んでみてください。

ドクイヤーや傍線がたくさん引いてあって読みずらいかもしれませんが、お貸しいたします。 矢上

飯館村の子ども達に会ってきます

3月26日・27日と福島県飯館村を避難先に訪問し、学童の子ども達・幼児預かり所の子供達と交流してきます。ギターとパネルシアターを持っていきます。みなさんからお預かりした義援金を飯館村教育委員会の廣瀬教育長さんにお渡ししてきます。今回は息子と二人でいきます。

3月16日に由井三小で教師になって2年目に卒業させた子ども達の同窓会がありました。葉山遠征の帰りに遅れて参加したのですが、その席で、沢山の義援金とCD1枚、嬉しいお手紙をいただいたのです。手紙をくださった方の了解を得て紹介させていただきます。

矢上先生

いつも仲間に入れていただきありがとうございます。飯館村での活動に少しでもお役に立てていただきたく思い、マーチンの気持ちとして受け取ってください。彼が元気でいたら先生と一緒に飯館村へ行っていたと思います。

飯館村の皆様へ

矢上先生の教え子の一人だったマーチンのママです。先生からお話を聴いています。マーチンが私の為に作ってくれた唄、聴いてください。家族の唄ですので、それぞれのご自分に置き換えて聴いてみてください。“ずーっと”という曲です。



マーチンは病気であつという間に亡くなってしまいました。私にとっては、そばにいてくれるような気持ちにさせてくれる曲です。二度とない今を大切に過ごしていきましょうね！

マーチンママより

マーチンとは由井三で5年・6年と私が担任した河崎正弘君のことです。学習でも行事でも遊びでも常にクラスのリーダーで、誰からも好かれ、信頼される、友達に優しい子だったのです。私にとっては共に育った共育の仲間です。そのマーチンが2004年8月24日、40才の若さで病に冒され旅立ってしまったのです。とっても沢山の友達がお別れを惜しみ、送ってくれました。その後、毎年行われるクラス会にはお母さんが出席してくださっているのです。